

第6章 大阪の観光

大阪は、食やショッピング、エンターテインメントをはじめ歴史、文化、芸術、芸能などにおいて様々な魅力を有しています。国土交通省観光庁の「宿泊旅行統計調査」によれば、大阪府における延べ宿泊旅行客数は、令和元年に4,743万人泊であり、5年前と比べて1,900万人泊ほど増えています（6-1参照）。このため、ホテルや旅館の客室稼働率も高水準で推移しており、元年は全国2位の高い水準にあります（6-2参照）。

宿泊旅行者の増加は、主に来阪外国人旅行者数の増加によるもので、特に、中国からの旅行者数の増加が顕著です（6-4参照）。ただし、ラグビーワールドカップ日本大会が開催された元年は、欧米豪から多くの旅行者が試合会場や公認チームキャンプ地のある九州や沖縄県を訪れています（6-5参照）。

LCC（ローコスト・キャリア）

日本航空や全日空のような大手の航空会社が「レガシー・キャリア」と呼ばれるのに対して、近年わが国でも台頭してきたLCCは「低費用航空会社」、あるいはより一般的に「格安航空会社」とも呼ばれます。Low Cost Carrierの略称であるLCCのビジネスモデルには、①運航コスト・人件費の削減、②機内サービスの簡素化・有料化、③航空券販売コストの削減といった特徴があります。

①では、所有する機材（飛行機）を同一機種に限定し、混雑の少ない空港を使って中短距離・多頻度で運航する、②では、座席指定、預かり手荷物、機内食・飲料の有料化、③では、インターネット予約などの直接予約による販売コストの低減などが図られています。

これまで、わが国の国内線でLCCとして事業を展開していたのは、ピーチ・アビエーション、ジェットスター・ジャパン、バニラエア、春秋航空日本、エアアジア・ジャパンの5社でした。ただし、ピーチ・アビエーションとバニラエアは、2019年11月1日に経営統合されました。この背景には、両社が持つ路線ネットワークを統合することで、成長が著しいアジアの需要を取り込もうと、中距離のLCC領域に進出する戦略があるようです。また、エアアジア・ジャパンは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う、国内の航空需要の落ち込みで資金繰りが悪化したこともあり、2020年12月5日をもって事業を廃止しました。

世界的なシェア競争の激化やコロナ禍の長期化が懸念される中、今後わが国でもさらなる新規参入や業界再編の動きがみられるかもしれません。

資料：ANA ホールディングス株式会社プレスリリース（2018年3月22日）

Peach Aviation 株式会社プレスリリース（2019年11月1日）

エアアジア・ジャパン株式会社ホームページ（2020年10月5日）

6-1. 宿泊旅行客数の推移

大阪府に宿泊する延べ旅行客数（外国人を含む）は、近年増加傾向にあり、令和元年には4,743万人泊となりました。5年前に比べると1,900万人泊ほど増えていますが、外国人の延べ宿泊者数が毎年2桁の勢いで増加していることが主な要因です。外国人の延べ宿泊者数は、令和元年には1,793万人泊と、全宿泊者の約38%を占めるまでに拡大しています。

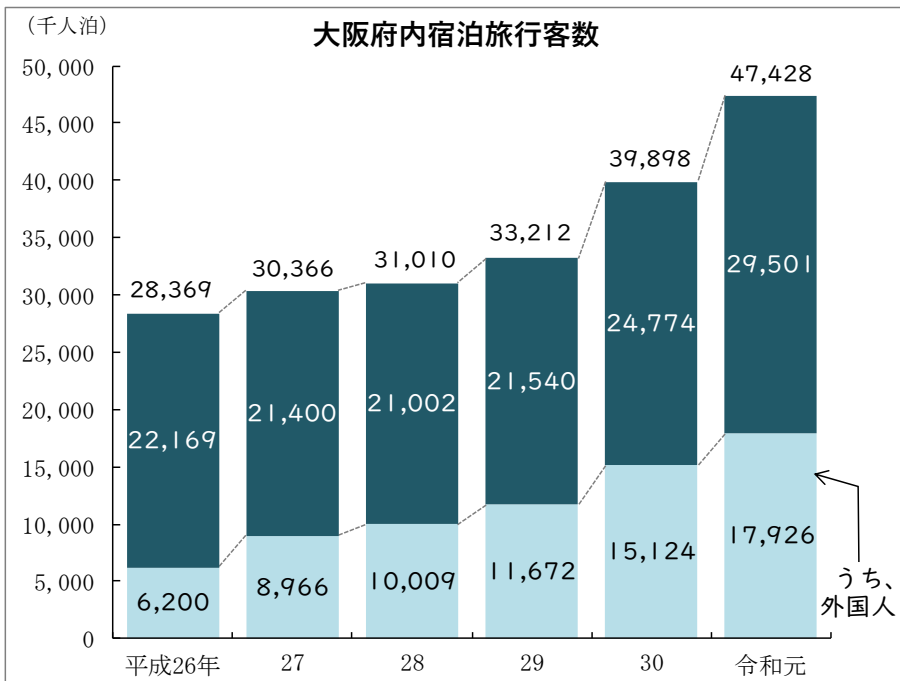
宿泊旅行客数の推移

（単位：千人泊）

	平成26年	27	28	29	30	令和元
大阪府	28,369	30,366	31,010	33,212	39,898	47,428
うち、外国人	6,200	8,966	10,009	11,672	15,124	17,926
東京都	54,259	59,088	57,515	59,950	66,109	78,982
うち、外国人	13,195	17,561	18,060	19,776	23,195	29,351
愛知県	15,395	16,622	16,559	17,189	17,010	19,338
うち、外国人	1,490	2,347	2,393	2,543	2,850	3,634
全 国	473,502	504,078	492,485	509,597	538,002	595,921
うち、外国人	44,825	65,615	69,389	79,691	94,275	115,656

（国土交通省観光庁「宿泊旅行統計調査」）

（注）四捨五入により、内訳と合計が一致しない場合がある。



6-2. ホテル・旅館客室稼働率の推移

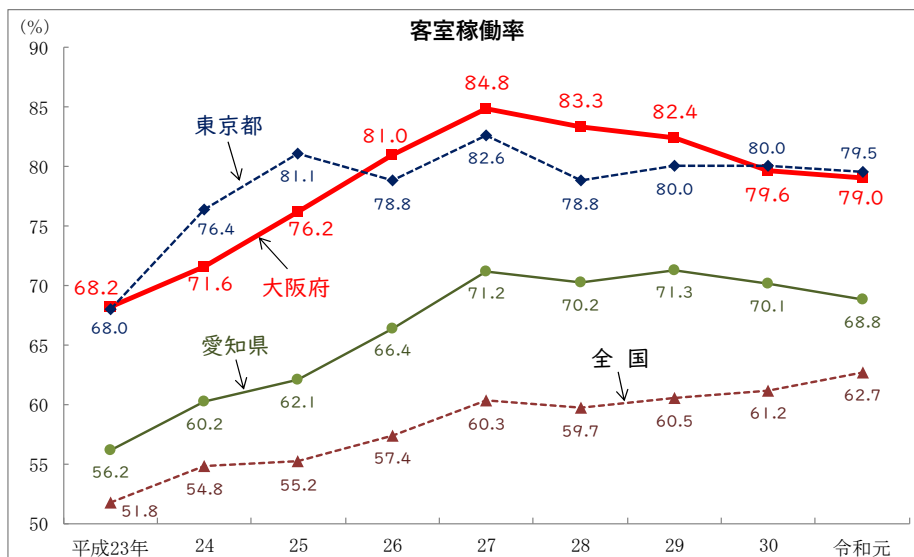
延べ宿泊者数の増加に伴い、ホテルや旅館の客室稼働率も高水準を維持しています。大阪府では、平成26年以降、東京都を上回る稼働率で推移していましたが、令和元年は79.0%と2年連続で東京都に抜かれ、全国2位となりました。

客室稼働率

(単位：%)

	平成23年	24	25	26	27	28	29	30	令和元
大阪府	68.2	71.6	76.2	81.0	84.8	83.3	82.4	79.6	79.0
旅館	32.5	29.2	40.1	43.1	50.5	41.3	59.6	43.9	36.2
リゾートホテル	69.1	72.4	79.5	85.8	89.8	89.0	92.4	90.8	90.9
ビジネスホテル	69.6	73.9	78.6	83.2	86.8	85.2	84.8	80.7	79.8
シティホテル	77.4	81.1	82.5	85.5	86.8	88.0	88.7	87.0	85.4
簡易宿所	-	-	-	-	57.8	58.5	54.2	62.5	60.6
会社・団体の宿泊所	40.5	38.7	31.9	27.0	56.8	45.3	42.9	50.6	44.2
東京都	68.0	76.4	81.1	78.8	82.6	78.8	80.0	80.0	79.5
愛知県	56.2	60.2	62.1	66.4	71.2	70.2	71.3	70.1	68.8
全国	51.8	54.8	55.2	57.4	60.3	59.7	60.5	61.2	62.7

(国土交通省観光庁「宿泊旅行統計調査」)



6-3. 航空旅客数の推移

関西国際空港では、国内線の便数は増加しましたが、日韓関係の悪化に伴う韓国路線の減便などにより、令和元年度の国内線・国際線を合わせた旅客数は8年ぶりに減少しました。

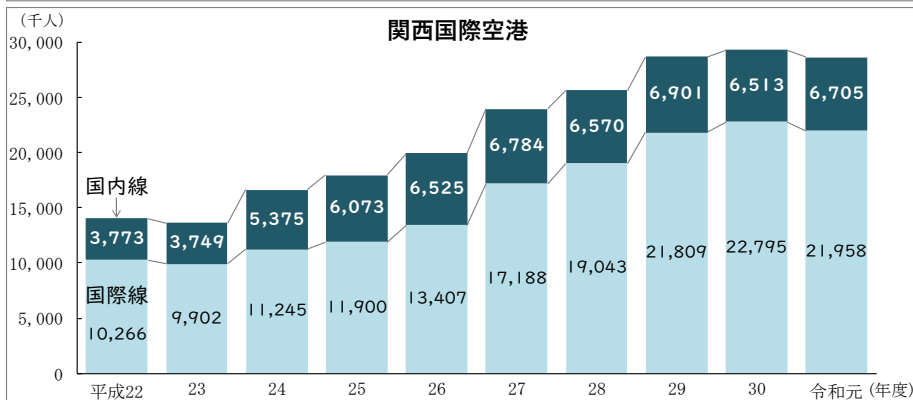
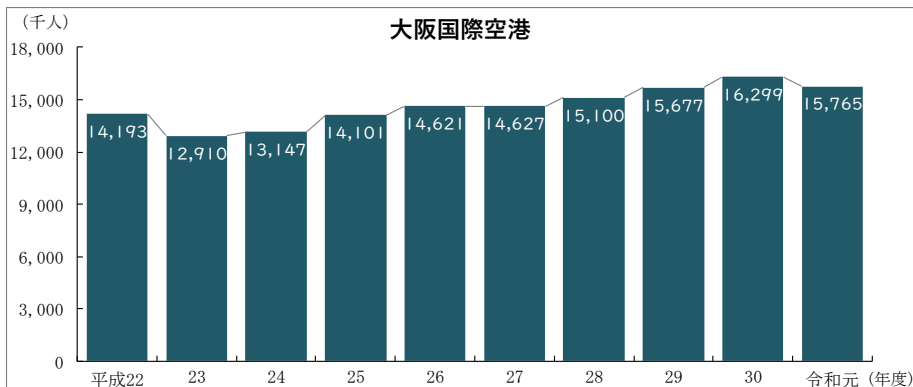
航空旅客数

(単位：千人)

年度		平成22	23	24	25	26	27	28	29	30	令和元
大阪国際空港		14,193	12,910	13,147	14,101	14,621	14,627	15,100	15,677	16,299	15,765
関西 国際 空港	国際線	10,266	9,902	11,245	11,900	13,407	17,188	19,043	21,809	22,795	21,958
	国内線	3,773	3,749	5,375	6,073	6,525	6,784	6,570	6,901	6,513	6,705
	計	14,039	13,651	16,621	17,974	19,932	23,973	25,613	28,710	29,308	28,663
2港 合計	国際線	10,266	9,903	11,245	11,900	13,407	17,189	19,043	21,809	22,795	21,958
	国内線	17,966	16,658	18,523	20,175	21,146	21,411	21,670	22,579	22,812	22,470
	計	28,232	26,561	29,768	32,075	34,553	38,599	40,714	44,388	45,607	44,428

(国土交通省「空港管理状況調査」)

- (注) 1. 大阪国際空港の数には22年度に295人、23年度に270人、27年度に302人の国際線利用者を含む。
 2. 大阪国際空港の運営が関西国際空港株式会社に引き継がれたことにより、24年度は4～6月を国管理、7月以降は空港会社管理の統計から抽出し合算した。



6-4. 来阪外国人旅行者数の推移

令和元年に大阪府を訪れた外国人は8年連続で増加し、約1,231万人と3年連続で1,000万人を超えました。中国、韓国、台湾、香港からの観光客が全体の約75%を占め、中国からの旅行者数は560万人を超えています。ただし、韓国からの旅行者数は前年に比べ約33%減少しています。

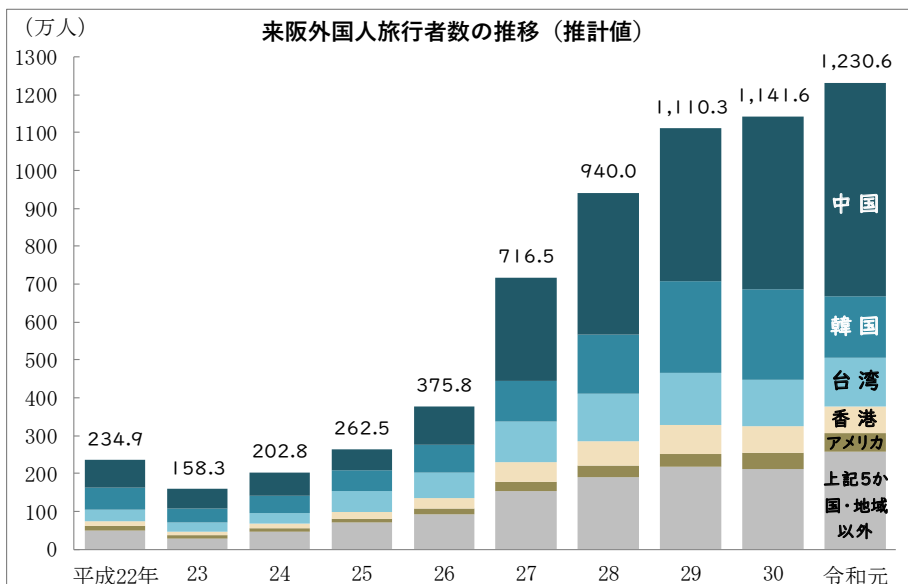
来阪外国人旅行者数の推移（推計値）

（単位：万人）

	平成22年	23	24	25	26	27	28	29	30	令和元
中国	73.2	50.2	61.5	52.9	100.9	271.7	372.9	402.4	455.0	564.2
韓国	58.9	37.0	44.8	57.8	72.1	108.1	157.8	241.3	239.0	160.8
台湾	30.1	24.1	30.5	53.1	67.9	105.5	125.4	140.1	122.3	127.6
香港	10.6	9.7	9.4	17.5	26.6	53.8	62.7	74.1	71.8	71.9
アメリカ	11.8	8.9	9.4	12.0	15.6	23.8	31.9	35.9	41.5	48.8
タイ	5.9	3.3	6.3	13.1	14.9	20.7	27.0	29.8	32.5	37.5
シンガポール	4.0	1.3	2.4	3.4	5.7	9.2	9.5	12.5	15.7	16.3
マレーシア	3.7	1.8	3.1	4.8	9.8	17.5	18.5	21.5	22.5	20.0
インドネシア	—	—	—	—	5.3	9.0	12.9	15.7	18.7	18.6
フィリピン	—	—	—	—	5.4	10.0	12.8	15.8	16.9	23.1
ベトナム	—	—	—	—	3.7	7.8	9.0	11.7	15.7	21.6
インド	0.8	0.6	0.7	0.9	1.8	2.5	3.1	3.7	3.9	4.1
その他	35.9	21.5	35.0	47.0	46.1	76.9	96.5	105.9	86.2	116.1
全体	234.9	158.3	202.8	262.5	375.8	716.5	940.0	1,110.3	1,141.6	1,230.6

（大阪観光局「来阪観光客数の推移」2019.4.3、2020.6.1）

（注）日本政府観光局（JNTO）「訪日外客数」「訪日外客訪問地調査」、観光庁「訪日外国人消費動向調査」をもとに大阪観光局が推計。インドネシア、フィリピン、ベトナムの平成25年値までは未推計。イギリス等は「その他」に含めた。



6-5. 訪日外国人の都道府県別訪問率【令和元年】

訪日外国人が訪れた訪問地を都道府県別にみると、中国や韓国など東アジアからの旅行者は空の玄関口である大阪府、東京都、千葉県とその近隣エリアへの訪問が多くみられます。一方、令和元年はラグビーワールドカップ2019日本大会が行われ、試合会場や公認チームキャンプ地として佐賀県を除く九州6県や沖縄県などが選ばれたことから、ラグビーファンの多い欧米豪の旅行者の訪問率が上がっています。

訪日外国人の都道府県別訪問率【観光・レジャー目的】（令和元年、上位5都道府県）

（単位：％）

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	上位3位の累計
中国	大阪府 65.5	東京都 48.9	京都府 47.9	千葉県 29.9	奈良県 29.3	162.3
韓国	大阪府 30.7	福岡県 25.5	京都府 15.9	東京都 14.0	千葉県 12.8	72.1
台湾	大阪府 26.7	東京都 25.5	千葉県 23.5	京都府 19.7	沖縄県 17.6	75.7
英国	福岡県 90.3	沖縄県 64.0	岡山県 56.4	長崎県 45.7	宮城県 23.3	210.8
米国	福岡県 83.2	沖縄県 68.0	岡山県 45.9	長崎県 37.2	岐阜県 16.0	197.0
豪州	福岡県 87.6	沖縄県 67.8	長崎県 52.9	岡山県 52.4	宮城県 21.4	208.3

（観光庁「訪日外国人消費動向調査」）

（注）訪問率は、調査対象の国・地域別の旅行者（回答者）のうち、各都道府県を訪れたと回答した割合。訪問地には、出入国空港の所在地が含まれる。

